

# 謹賀新年

## 令和3年 元日



矢巾町長  
高橋 昌造

あけましておめでとうござい  
ます。町民の皆さまにおかれましては、  
健やかなる新年をお迎えのことと、  
心からお慶び申し上げます。日頃よ  
り町勢発展のため、ご理解とご協力  
を頂いておりますことに、心から感  
謝申し上げます。

令和2年は新型コロナウイルスが  
猛威をふるい、その状況は現在まで  
続いています。最前線に立つ医療従  
事者、工夫を凝らして営業されてい  
る各事業所の方々、感染症予防に取  
り組んでいる町民の皆さまの努力が  
実を結び、全ての人々が心穏やかに  
過ごせる日々が戻ることを願ってや  
みません。町として、皆さまの不安  
をなくし、安心して暮らせるよう、  
感染症対策に関わる各種施策を全力  
で推進してまいります。

このような社会情勢の中でも、1

年を振り返ると町内では、岩崎川床  
上浸水対策特別緊急事業が竣工し、  
水害対策が強化されたことや、矢巾  
スマートインターチェンジが利用台  
数200万台を突破するなど、明る  
い話題もありました。加えて「矢巾  
町安全安心の日」(8月9日)の制定、  
第1回矢巾町音楽祭の開催など、町  
民の皆さまと共に取り組んできたこ  
とは、今後の町勢発展に資するもの  
と確信しています。

今年、東日本大震災の発生から  
10年となります。本町としても、あ  
の日を忘れることはできません。ま  
た、近年は全国各地で災害が頻発し  
ており、本町においても再び、大災  
害が発生しても不思議ではありません。  
町としてさまざまな機会をとら  
え、生命、暮らしを守るための施策  
を推進してまいります。皆さまにお  
かれまして、改めて地域で、家族  
で、個人それぞれで、防災について  
考えていただきたいと思います。

この一年が皆さまにとって、素晴  
らしい年となることを祈念し、新年  
のあいさつといたします。



矢巾町議会議長  
藤原 由巳

町民の皆さま、あけましておめで  
たうございます。コロナ禍の中では  
ありますが、皆さまには新たな気持  
ちで、希望に満ちた令和3年をお迎  
えのこととお慶びを申し上げます。

令和2年は、輝かしい一年を目指  
した矢先、新型コロナウイルス感染  
症が世界的に拡大し、本町でも、小  
中学校の休業など多くの対策が講じ  
られた年でした。議会としても傍聴  
者を含め、3密対策を周知徹底した  
中で定例会12月会議まで毎月よう  
に会議を開催し、感染症対策を含め  
た全議案を可決してまいりました。

その中で、最も重要視したのは  
ネットワーク学習環境の整備です。  
全児童生徒に情報端末機の整備が予  
算化され、3月には配備されます。  
さて、迎えました本年は、早期の  
コロナ禍収束を願いつつ、延期と

なった東京オリンピック・パラリン  
ピックが開催され、本町出身の水本  
圭治選手が、夢舞台で大活躍するこ  
とで町民に大きな希望と活力を与え  
てくれるものと熱望しています。ま  
た、スポーツの町として岩手ビッグ  
ブルズの練習拠点が置かれ、アスレ  
チック運動場の運営も始まります。

議会としてもコロナ禍の中、農商  
工業者への経済支援施策と生活弱者  
への支援対策を第一に、増加する交  
流人口対応として防犯・交通安全と、  
多発する自然災害への対策にも重点  
的に取り組めます。

本年のえとは辛丑かのとうしです。近年まで  
牛は家族の一員として働いてくれた  
たくましく、優しい家畜でした。私  
たちも町民の皆さまとともに優しい  
気持ちで、この町を思い活動してま  
いります。

一日も早く平穏な生活が戻り、こ  
の一年が素晴らしい年となることを  
祈念し、議会に対しまして忌憚きたん  
ないご意見ご指導を賜りますよう心  
からお願い申し上げます、年頭のあいさ  
つといたします。

丑年  
やはば

今年<sup>し</sup>は丑年。かつて丑年の矢巾町で起こった出来事を集めてみました。

昭和48年(1973年)



不動小学校が創立100周年を迎えました。この時に建てられた記念碑「百練」の除幕式典の様子が、当時の広報やはばで紹介されました。

昭和60年(1985年)



現在の町役場庁舎が完成し、供用開始となりました。現在は庁舎前に多くの記念碑・樹が並び、屋上にはラジオ用アンテナ、太陽光パネルなどがあります。

平成9年(1997年)



町国際交流協会が設立されました。友好都市である米国フリモント町との交流など、現在も町の国際交流事業について大きな役割を担っています。

平成21年(2009年)



楽々クラブ矢巾が設立しました。各種教室などの開催を通して、子どもから大人まで、町民がスポーツに親しみ、楽しめる場を作り続けています。

未来への鼓動

令和2年は、これまでにないような困難が世界中を襲った中、人々が創意工夫を凝らした年となりました。1年を振り返り、代表的な話題の一部を紹介します。



新型コロナウイルス  
新しい生活様式に

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、国・県・町内でも多くの感染者が発生。手指消毒やマスクの着用、こまめな換気など、感染症対策を踏まえた新しい生活様式が始まった1年となりました。また、多くのイベントなどが中止となった年でもありました。

町内でも、さまざまな施設で、体温測定や消毒などを実施しています。感染症の収束を目指し、令和3年も一人一人ができることを続けていきましょう。

平成25年に本町を襲った豪雨災害を忘れず、町民や町関係者の防災意識の高揚につなげるため、同災害が発生した8月9日を「矢巾町安全・安心の日」と決めました。

町公民館で実施した制定式典では、避難所で使われる段ボールベッドの組み立て展示や、消防活動に活躍するドローンの飛行展示を実施。この日に合わせて、災害から身を守るためにできることを考え、実践してみましよう。



矢巾町安全・安心の日制定式典

防災意識の高揚へ  
「町安全・安心の日」制定



町音楽祭を初開催  
地元小中高生が活躍

第1回矢巾町音楽祭を10月18日に開催しました。コロナ禍の中、音楽の力で町を盛り上げていくため、町内小中学校の吹奏楽部や合唱部、不来方高校音楽部(写真)が活躍。日頃の練習の成果による美しい音色に、観客を楽しませるパフォーマンスを交えて届けました。

この音楽祭の開催を機に、「音楽のまち やはば」として音楽を通じ、町の活力となる取り組みを進めていきます。